

学的解明およびその処理メカニズムの解明を目的とした基礎的なものであり、その知見をもとに VR 装置の創成や改良を目指すものでした。自己運動感覚は、小規模な VR 装置では与えにくい感覚の一つであり、比較的簡易に実現可能で研究の進んでいる視覚情報や聴覚情報の利用に注目が集まり活発な議論がありました。また両眼立体視における奥行き知覚が絶対距離に依存する点に注目した研究は、調節や輻輳の正確な制御が難しい VR 装置で考慮されなければならない重要な問題を提起しました。サッケード眼球運動を利用した新しい視覚刺激提示装置についての基礎的研究は、まさに実用化を目前にしている点で興味深いものでした。全体を通して、知覚心理学的な側面からの研究が今後の VR 技術に新しい進展をもたらすことを期待させるセッションでした。



機器展示の様子



論文賞授賞式の様子

◆次回大会長より

川崎晴久

第8回大会長（岐阜大学）

今年度のバーチャルリアリティ大会は、東京都国際交流会館で開催され、最先端のお台場らしいイベントが盛りだくさんありました。一日目の久野良木健氏の招待講演では、バーチャルリアリティとそれに取り組む若い研究者への力強い応援歌をいただき、懇親会はちょっとビックリの立食形式、その後の cell/66b のパフォーマンスは異次元空間に誘われました。二日目のジョイポリスでの表彰式および論文発表、さすが、お台場らしいイベントでした。三日目の産総研見学のテクニカルツアー。講演会や技術、芸術の展示発表、バーチャルリアリティ予選等々、佐藤先生をはじめ実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

次年度は、岐阜で開催します。過って、岐阜は歴史の大舞台でした。再び、地方が新しい歴史を創る時代になることが期待されています。歴史ある岐阜の良さと最新技術のバーチャルリアリティが調和した大会となるよう計画します。皆様のご参加を期待しております。

◆アンケート集計結果

高橋秀智

幹事（東京工業大学）

昨年度はアンケート回答に関して苦勞されたと伺っていたので、本年度は特製 CD-ROM を景品として準備し、また座長の皆様にアンケートに回答して頂くようアナウンスをお願いいたしました。効果はそれほど上がらず、42 通の回答があったのみでした。

それでは、主だった集計結果について説明いたします。

回答者の構成は、約半数が初めての大会参加で、4分の1が2回目ということでした。これらの構成は昨年度とほぼ同様と考えられます。また、7回全てに参加されている方も6名(14%)もいました。また、参加目的では、ほとんどが研究成果や作品の発表、および聴講・情報収集でした。それから本大会の開催情報の入手に関しては、学会のニュースレターが最も多く、教官や知人からの紹介もほぼ同程度でした。少数では芸術科学会のメーリングリストや評議会通知などの回答がありました。

次に、本大会全般についての印象に関する結果を図1

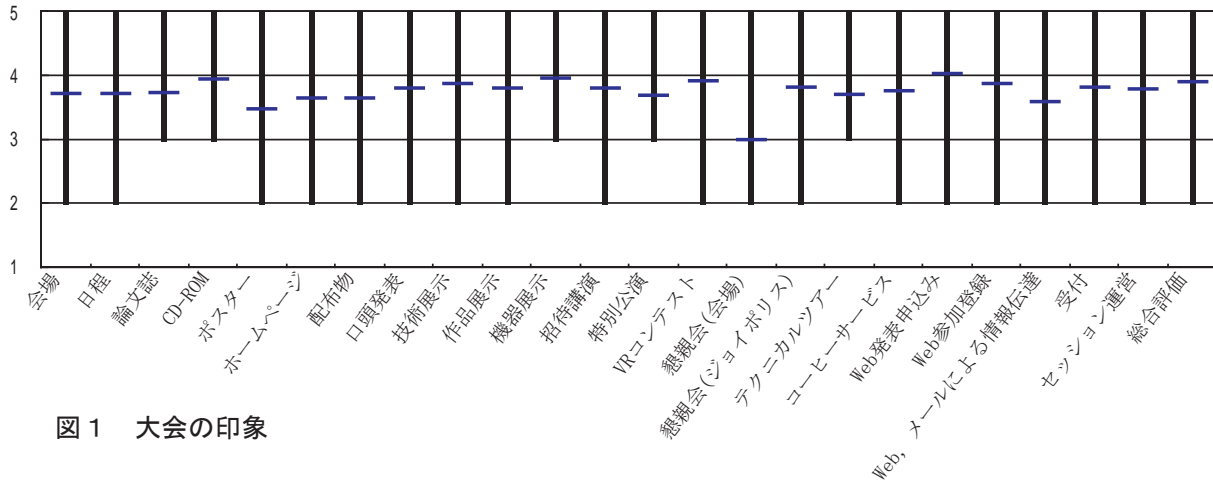


図1 大会の印象

に分散と平均値を含めて示します。ほとんどが中間値3以上ですが、Webによる申込み、CD-ROM、機器展示、VRコンテストなどが特に印象が良く、逆に会場での懇親会はあまり印象が良くありませんでした。

良かったものの理由としては、

- ・テクニカルツアーなど企画が多くて良い。
- ・原稿の紙面での仕上がりが大変良い。
- ・VRコンテストは非常に刺激になった。
- ・実演発表やVRコンテストなど実際のものとインタラクションが得られる情報は非常に有益。
- ・久夛良木氏の招待講演に感激した。
- ・会場はきれいで、静か。
- ・お台場という場所とジョイポリスの企画はVR学会らしく体感を重視したところがすばらしい。

などのご意見をいただきました。これらのコメントからは、実行委員会で意図した大会のプロファイルが出せたと考えられるのではないのでしょうか。

また、良くなかったものの理由としては、

- ・参加費が高い。
- ・会場が狭い。
- ・懇親会の食事が少なかった。
- ・日程が試験などに重なっている。
- ・発表時のPCの切り替えに手間取る。

などのご意見もいただきました。参加費については特に学生の方からの多数のご意見をいただきました。

一方、意見が2つに分かれたものでは、

- Webによる受付、投稿は便利だった。
 - × Webが落ちていた、データが消えた。
- などのご意見もいただきました。

Webの導入に関してはその利便性には疑う余地はないことですが、その管理運営には、多大な努力と細心の注意が必要であると思われます。

また、今回試行的に行ったCD-ROMによる論文誌の提供に関して、

○ 講演を聴く際にCD-ROMだけでは内容の理解が困難なため、両方あって良かった。

× CD-ROMがあるので論文誌はいらない

という意見を頂いており、この問題に関しては、CD-ROMを事前に発送すれば良いという貴重なご提言も頂いております。ただ、CD-ROMによる論文誌の提供に関しては、ほとんどの方が良かったと考えられているようです。

次に参加目的の達成度に関しては、図2に示されるように、回答された方のおよそ95%の方がほぼ達成されたと感じられています。さらに、次回第8回大会への参加に関する質問には、図3のように約70%の方が参加したいと思われていることが分かります。

以上の回答から判断いたしますと、本大会で目標とした新たな飛躍となる第一歩とすべく行った企画は、当初の目的を果たしたと考えて良いかと思えます。

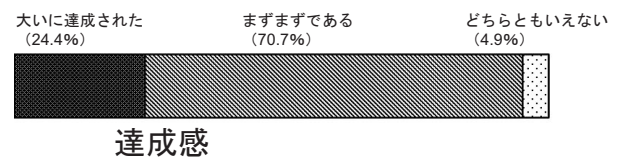


図2 参加目的の達成度

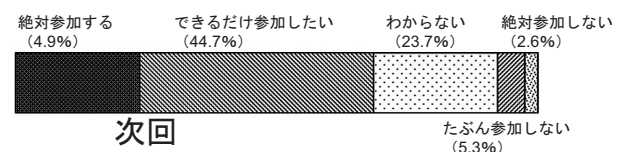


図3 第8回大会への参加意志